



嘉永三年
御用留

庚戌正月

一、
 二、
 三、
 四、
 五、
 六、
 七、
 八、
 九、
 十、

右の如く部中の判別を以て成部の中を以て
 其の如く判別を以て成部の中を以て
 其の如く判別を以て成部の中を以て
 其の如く判別を以て成部の中を以て
 其の如く判別を以て成部の中を以て
 其の如く判別を以て成部の中を以て
 其の如く判別を以て成部の中を以て
 其の如く判別を以て成部の中を以て
 其の如く判別を以て成部の中を以て
 其の如く判別を以て成部の中を以て

一、
 二、
 三、
 四、
 五、
 六、
 七、
 八、
 九、
 十、

一、
 二、
 三、
 四、
 五、
 六、
 七、
 八、
 九、
 十、

三

永くおはせり

はなはた

はなはた

永くおはせり

はなはた

はなはた

永くおはせり

はなはた

はなはた

永くおはせり

はなはた

はなはた

永くおはせり

はなはた

はなはた

永くおはせり

はなはた

はなはた

右より申し渡すは

永くおはせり

はなはた

永くおはせり

永くおはせり

永くおはせり

永くおはせり

永くおはせり

永くおはせり

此藥能皮肉用之能令皮膚紅潤如新
切後之痛或痛之症全愈皮肉如新
不皮不痛之症有之九月方之書也
一應之

一、結束沙龍之儀，由丁淑敏女士致謝詞。

成育
沖波所

[illegible]

陳之新印

川東

夏

一、世界各國經濟之發展

丁巳仲夏

中

留聲

何有之

卷之六

五七五書をすゝる

一 五七五書をすゝる
一 五七五書をすゝる
一 五七五書をすゝる
一 五七五書をすゝる
一 五七五書をすゝる

成
二月

五七五

五七五

五七五
五七五
五七五
五七五
五七五

一 五七五書をすゝる

五七五

五七五
五七五
五七五
五七五
五七五

五七五

五七五

五七五

五七五

五七五

五七五

五七五

正徳三年十一月一日

正徳三年十一月一日

正徳三年十一月一日

正徳三年十一月一日

四

正徳三年十一月一日

正徳三年十一月一日

正徳三年十一月一日

正徳三年十一月一日

正徳三年十一月一日

正徳三年十一月一日

正徳三年十一月一日

昔高皇王由大坂遷居江戶今皇孫亦
由彼王名今不之居王也

萬壽無疆
 長生不老
 福祿壽三星
 喜樂無憂

一、張常山關羽為月木之公山陰侯之臣
電日割旦所書為公之長孫之臣
陽月八初八日

[illegible]

[Illegible handwritten text]

成育子
張中
寄所

(Calligraphy)

大に候ふる者候

一人に候

一人に候

大に候ふる者候

一人に候

一人に候

大に候ふる者候

一人に候

一人に候

大に候ふる者候

一人に候

一人に候

大に候

大に候

大に候

大に候

大に候ふる者候

一人に候

一人に候

大に候ふる者候

一人に候

一人に候

大に候ふる者候

一人に候

一人に候

大に候ふる者候

一人に候

一人に候

大に候

大に候

大に候

大に候

大に候ふる者候

一人に候

一人に候

大に候ふる者候

一人に候

一人に候

大に候

大に候

大に候ふる者候

一人に候

一人に候

大に候ふる者候

一人に候

一人に候

大に候ふる者候

一人に候

一人に候

大に候ふる者候

一人に候

大に候

大に候

大に候

大に候

大に候ふる者候
尾花渡り歩ふる者候

江國表の意を以てし來りて記はるべき事なり
此の意を以てし來りて記はるべき事なり
劉氏に於て是れを以てし來りて記はるべき事なり
玉璫に力願ふ意を以てし來りて記はるべき事なり
事なりと云

戊午

長兄

泖波新

沈君
子
子

書物

三

一、人、名、を、記、す、

一、事、を、記、す、

一、物、を、記、す、

右、三、事、を、記、す、

戊午月

沈君

子
子

2

福之

○ 福之口 子
24
3

孫子
子孫

和者爲

張志和

石印之書

石門山房

張君之書

一和於名
中解分付

一、海山石

有之於心者常為通河所為矣

我今寄一死方通平之而
 自今已後乃致送之也此
 其意也

二月廿九

張

1875

三

祖名

小次郎のり

おのれ月日通海月日人達
祖名小次郎のり
あまのりさまたまのり

月

淡路のり

おのれ中月日通海月日人達
淡路のり
あまのりさまたまのり

り

九のり

あまのり

り

あまのり

三

祖名

おのれ月日通海月日人達
祖名
あまのり

り

おのれ月日通海月日人達
り
あまのり

祖名

おのれ月日通海月日人達
祖名
あまのり

り

おのれ月日通海月日人達
り
あまのり

り

おのれ月日通海月日人達
り
あまのり

り

おのれ月日通海月日人達
り
あまのり

り

おのれ月日通海月日人達
り
あまのり

り

おのれ月日通海月日人達
り
あまのり

卷之六

一全

丁巳

一

五

二月丁巳

一

五子

一、

卷之五

Y

不致秋田

人

三

一

王三

一

子

✓

15



夏以中

何處有

七ノ三ノ七

丁巳年

而後

2

五

部

7

不書

Y443

丁巳年

花月

人丁田
今

割紙

卷之五

三

卷之五

平天下

三

大志を遂げしは世に名はるる人なり
有るは世に名はるる人なり
世に名はるる人なり
世に名はるる人なり
世に名はるる人なり

成
育子

翠

子訓

世に名はるる人なり
世に名はるる人なり
世に名はるる人なり
世に名はるる人なり
世に名はるる人なり

夏

世に名はるる人なり

世に名はるる人なり

世に名はるる人なり

世に名はるる人なり
世に名はるる人なり
世に名はるる人なり
世に名はるる人なり
世に名はるる人なり

世に名はるる人なり
世に名はるる人なり
世に名はるる人なり
世に名はるる人なり
世に名はるる人なり

世に名はるる人なり

世に名はるる人なり

世に名はるる人なり

世に名はるる人なり

世に名はるる人なり

世に名はるる人なり

一

李士英

古明寺所藏

苦行

苦力

王明

實事求是

李方叔

一食之

孝子之

古德

一食乃人
夢志是

44

一、自是年人
事乃自是年

古

平陽上縣舟楫有難。長安表出縣舟楫。口口口口口。

此止者聖子所共道也

中法大藥房
上海南京路

七十四所預江東道寺四回所領甘州五縣民爲寺作務

中

工丁印

閱

香

王長安

719

之

一食人

親行

一

李福川

三

吾子

二

31

一

小多子

三

子兮

臣等前奉 聖旨 欽此 遵行 在案 臣等 等因 欽此

臣等 遵奉 聖旨 欽此 遵行 在案 臣等 等因 欽此

臣等 遵奉 聖旨 欽此 遵行 在案

臣等 遵奉 聖旨 欽此 遵行 在案

一人 遵奉 聖旨 欽此 遵行 在案

臣等 遵奉 聖旨 欽此 遵行 在案

臣等 遵奉 聖旨 欽此 遵行 在案 臣等 等因 欽此

臣等 遵奉 聖旨 欽此 遵行 在案

臣等 遵奉 聖旨 欽此 遵行 在案

臣等 遵奉 聖旨 欽此 遵行 在案

一 永可保或大甲

曉三多村

一 合二家或永

永可保或大甲

合二家或永

一 合或永

永可保或大甲

合或永

一 合或永

永可保或大甲

合或永

一 合或永

永可保或大甲

合或永

一 合或永

永可保或大甲

合或永

永可保或大甲

一 合或永

永可保或大甲

合或永

一 合或永

永可保或大甲

合或永

一 合或永

永可保或大甲

合或永

一 合或永

永可保或大甲

合或永

永可保或大甲

永可保或大甲

永可保或大甲

永可保或大甲

二月廿八日 永山縣人
付與百官人

一永七縣人

付與百官人

下月兩進此貨相與永七縣人
付與百官人

付與百官人

三月廿八日
付與百官人

付與百官人

三月廿八日
付與百官人

二月廿八日 永山縣人
付與百官人

二月廿八日

三月廿八日
付與百官人

三月廿八日
付與百官人

李商隐

五

一床 長巻のりト 七五折 一床 長巻のりト 五五折

一、百善孝为先
七、孝子

一、
 此乃...
 二、
 此乃...

由永
百重山寺下至赤井川

張孝全氏藏
張孝全氏藏

海東百三十三卷

余亦喜其長也

卷之五

朱子集注

黃子華

金東長子長子

芳名錄

永

黃君璧

一床百歲堂

七、

一
“
九

山本匠方

海東に書きたる

余未嘗不爲之

芳

取寄のきき

廿一

一、宋江在江州被囚，
江州

一、
百

一、
卷之五

内取九條五子以下

酒床百藥之方

金末王若虛力言

黃竹坡

休之勢なり

甘肅省

七、八、九

一 宋書書目下

二 宋書書目下

三 宋書書目下

四 宋書書目下

五 宋書書目下

六 宋書書目下

七 宋書書目下

八 宋書書目下

九 宋書書目下

一 宋書書目下

二 宋書書目下

三 宋書書目下

四 宋書書目下

五 宋書書目下

六 宋書書目下

七 宋書書目下

八 宋書書目下

九 宋書書目下

宋書書目下

宋書書目下

宋書書目下

宋書書目下

宋書書目下

宋書書目下

作唐中機山道云有香花をたのむらん
明物たりと云ふは修て事

下通山陽の香花を云ふは山陽の香花
を云ふは山陽の香花を云ふは山陽の香花

は七のり 印 宗

七のり 山陽の香花
七のり 山陽の香花
七のり 山陽の香花
七のり 山陽の香花

夏

一 難 山陽の香花
七のり 山陽の香花

一 難 山陽の香花
七のり 山陽の香花

一 難 山陽の香花
七のり 山陽の香花

一 難 山陽の香花
七のり 山陽の香花

一 難 山陽の香花
七のり 山陽の香花
七のり 山陽の香花
七のり 山陽の香花

七のり 山陽の香花
七のり 山陽の香花

七のり 山陽の香花
七のり 山陽の香花
七のり 山陽の香花
七のり 山陽の香花

一、今、此後、此を所為に於て、創設の書、
別冊、是口より、今、此種、此の、同、
書、此の、所、此の、所、此の、所、

中、月

長、年、

中、月

中、月

一、今、此後、此を所為に於て、創設の書、
別冊、是口より、今、此種、此の、同、
書、此の、所、此の、所、此の、所、

中、月

中、月

中、月

中、月

一、今、此後、此を所為に於て、創設の書、
別冊、是口より、今、此種、此の、同、
書、此の、所、此の、所、此の、所、

おとよのふ

おとよのふ

おとよのふ

おとよのふ

おとよのふ

おとよのふ

おとよのふ

おとよのふ

おとよのふ

おとよのふ

おとよのふ

おとよのふ

おとよのふ

おとよのふ

おとよのふ

おとよのふ

おとよのふ

おとよのふ

江波新

江波新行殿之町ありて一柱之町なりと云ふ
 老木ありて其下を過る者ありて其下を過る者あり
 江波新町にありて其下を過る者ありて其下を過る者あり
 江波新町にありて其下を過る者ありて其下を過る者あり

江波新

江波新

江波新

江波新

江波新

江波新

江波新

江波新

江波新

合組之役より中事なり
は後下役より中事なり

川
中

合組之役より中事なり
は後下役より中事なり

大田

合組之役より中事なり
は後下役より中事なり

大田

大田

大田

合組之役より中事なり
は後下役より中事なり

大田

合組之役より中事なり
は後下役より中事なり

大田

合組之役より中事なり
は後下役より中事なり

大田

合組之役より中事なり
は後下役より中事なり

大田

今般下を中事人
は流山に流中事人

大徳田

今般下を中事人
は流山に流中事人

大徳田

今般下を中事人
は流山に流中事人

大徳田

三

七月十五日

一 今般下を中事人
は流山に流中事人

大徳田

一 今般下を中事人
は流山に流中事人

大徳田

一 今般下を中事人
は流山に流中事人

大徳田

一 今般下を中事人
は流山に流中事人

大徳田

七月十五日

一 今般下を中事人
は流山に流中事人

大徳田

一 今般下を中事人
は流山に流中事人

大徳田

一 今般下を中事人
は流山に流中事人

大徳田

一 今般下を中事人
は流山に流中事人

大徳田

ありけ

一人きり人

ある一人

一人きり人

ある一人

ありけ

一人きり人

ある一人

一人きり人

ある一人

ありけ

ありけ

ありけ

ありけ

ありけ

一人きり人

ある一人

一人きり人

ある一人

ありけ

一人きり人

ある一人

ありけ

一人きり人

ある一人

ありけ

ありけ

ありけ

ありけ

右

ありけ

一人きり人

ある一人

ありけ

江戸下町月一丁に江戸の町ありけ

江戸下町月一丁に江戸の町ありけ

江戸下町月一丁に江戸の町ありけ

江戸下町月一丁に江戸の町ありけ

江戸下町月一丁に江戸の町ありけ

江戸下町月一丁に江戸の町ありけ

江戸下町月一丁に江戸の町ありけ

之

[illegible]

石室の成り立の利書の一通割愛してしる
る月一日の成り立の利書の一通割愛してしる
成り立の利書の一通割愛してしる

成
節
之

五

今

三ノノ

傳記秘史
後山氏之海

右類之通に
以今事

萬曆三十八年
正月

川口方
沖波所

右類之通に
以今事

伝記秘史

級次

色白く
厚き

伝記秘史

色白く
厚き

右類之通に
以今事

田圃を以てて是も此國の米を食ふに
て有る故に其の味も其の質も其の
質も其の味も其の質も其の味も
其の質も其の味も其の質も其の味も
其の質も其の味も其の質も其の味も

新米
八月

新米

新米
八月

三

八月
九月

八月
九月

八月
九月

八月
九月

八月
九月

八月
九月

天竺山

天竺山

天竺山
天竺山
天竺山
天竺山

天竺山
天竺山

天竺山

天竺山
天竺山
天竺山

天竺山

天竺山

天竺山

天竺山

三

一
金

山陰

右表以夜古水之有之何之水押一或成詩不
足今之何之明末之何之何之時
上何之何之系何之何之何之何之
上何之何之何之何之何之何之何之
止者之何之何之何之何之何之何之

嘉新刊竟一也
 結字之微不
 亦亦之微不
 結字之微不

月夜

川合臣

鄧通

月夜記

日日
為山石

孟氏

日月亦如之

張

17
4
160

丁巳年正月

江蘇

天長

口
口
口

三月

人

江

夏

一 山 之 南 長 道

古 人 所 居 之 處

九 日 寺

古 寺

山 南 寺
古 寺

夏

一 山 之 南 長 道

口

山 南 寺
古 寺

山 南 寺
古 寺

一 山 之 南 長 道

陳其美

石田素庵

中興居士印
相之甚感
日夕
楊子

林

野黑河村
野黑河村
野黑河村
野黑河村

[illegible]

吉野村

吉野村

吉野村

吉野村

吉野村

吉野村

吉野村

吉野村

吉野村

吉野村

吉野村

吉野村

吉野村

吉野村

吉野村

吉野村

吉野村

吉野村

吉野村

吉野村

吉野村

吉野村

吉野村

吉野村

吉野村

吉野村

吉野村

吉野村

吉野村

吉野村

吉野村

吉野村

夏

一食之

丁巳秋 長安

下公其村相地不
安立一而中村以
事以
止者
司
收

丁巳仲夏
古田林方氏
書於
古田

庚子月

川金礦

張其成

廖正興

蘇軾

王明

下

張

河名

"T
to
H
or

常川

青石

五




100

中

海

答

陳

[illegible]

何

川原のついで

一、
空
心
之
市

一平繼後

[illegible]

石通乳乳管腫下方より乳を分泌する
沙色より血を夜に分泌する

癸卯年九月

大
 二
 三
 四
 五
 六
 七
 八
 九
 十
 十一
 十二
 十三
 十四
 十五
 十六
 十七
 十八
 十九
 二十
 二十一
 二十二
 二十三
 二十四
 二十五
 二十六
 二十七
 二十八
 二十九
 三十
 三十一
 三十二
 三十三
 三十四
 三十五
 三十六
 三十七
 三十八
 三十九
 四十
 四十一
 四十二
 四十三
 四十四
 四十五
 四十六
 四十七
 四十八
 四十九
 五十
 五十一
 五十二
 五十三
 五十四
 五十五
 五十六
 五十七
 五十八
 五十九
 六十
 六十一
 六十二
 六十三
 六十四
 六十五
 六十六
 六十七
 六十八
 六十九
 七十
 七十一
 七十二
 七十三
 七十四
 七十五
 七十六
 七十七
 七十八
 七十九
 八十
 八十一
 八十二
 八十三
 八十四
 八十五
 八十六
 八十七
 八十八
 八十九
 九十
 九十一
 九十二
 九十三
 九十四
 九十五
 九十六
 九十七
 九十八
 九十九
 一百

冲波新

書材之味後亦不覺其苦矣故先相原以爲
初乃人之能於此而不至於見定失其所以
明悟之理也至若子以爲初乃人之能於此
下而必出於此則必有全德下則必有全德
唯是後而可致焉

九月十五日
冲凉

くまのり
あまのり
あまのり
あまのり
あまのり
あまのり
あまのり
あまのり
あまのり
あまのり

あまのり

夏

一 木下田舎のり
二 木下田舎のり
三 木下田舎のり
四 木下田舎のり
五 木下田舎のり
六 木下田舎のり
七 木下田舎のり
八 木下田舎のり
九 木下田舎のり
十 木下田舎のり

一 木下田舎のり
二 木下田舎のり
三 木下田舎のり
四 木下田舎のり
五 木下田舎のり
六 木下田舎のり
七 木下田舎のり
八 木下田舎のり
九 木下田舎のり
十 木下田舎のり

一 木下田舎のり
二 木下田舎のり
三 木下田舎のり
四 木下田舎のり
五 木下田舎のり
六 木下田舎のり
七 木下田舎のり
八 木下田舎のり
九 木下田舎のり
十 木下田舎のり

木下田舎のり

陳力月書

43

追亡去不復，
所至無不有。
留侯圖漢書，
後果留侯之
少也。然使
斯左少，
海內為之
少也。

夏

王世貞

王 德 林

成子

管

明倫彙編
家範典

[illegible]

夏

一 尺山石老月來千歲

廿一日

13

長年努力 要務をこなし

付 成 長 率

丁巳仲夏

三

取の進め方
と指導法

李

○ 中 日 文 學 史

張其成

丁巳年

丁巳仲夏

十月九日

一、
二、
三、
四、
五、
六、
七、
八、
九、
十、

丁巳年正月

明倫彙編

一

朱子

川島

少頃

天下を治るは川に國は民を治るは村に
 民を治るは吏を治るは官に國を治るは
 天子に天子を治るは天子に天子を治るは
 天子に天子を治るは天子に天子を治るは
 天子に天子を治るは天子に天子を治るは
 天子に天子を治るは天子に天子を治るは

庚子年

古井

長江南北各縣之兵卒皆以爲一村俱以爲一

陳永昌

如左之印

曹汝霖

方之

王中書省

以東三印令其長 萬之德者有之勿惜

五律五律五律

三

在 少 中 年 時 代 中 國 文 學 史 中

山陰書

五印古所出乃重之

青方江表人志節
以名紙子

乃成主之旨
代高王孫成
病氣之如龍
成矣可之矣
下而名之
不亦其為事也

十日
紀序

淨身書之事

一
紀序
紀序
紀序

將列此
大品

長所
年者
乃

此乃... 爲... 代... 新... 物...
... 所... 頂... 戴... 淨...
... 所... 人... 係... 十... 送... 官... 府... 更... 涉...
... 且... 所... 天... 城... 之... 是... 手... 序... 不...
... 我... 大... 德... 主... 行... 取... 係... 以... 經...
... 書... 乃... 公... 一... 之... 如... 此...

前... 年...
有...

南... 市... 係... 河... 國... 家...
... 部...
... 所...
... 係... 下...

... 係...
... 係... 八... 下...
... 係... 下...

... 係...
... 係... 下...

... 係... 下...

... 係... 下...
... 係... 下...
... 係... 下...

山陽一葉集
卷之八

萬年

紅香山

たふ

卷之五

卷八

記

御江朝

[illegible]

印育五
河江新

張

石山寺
石山寺
石山寺
石山寺

三

石山寺
石山寺
石山寺
石山寺

石山寺
石山寺
石山寺
石山寺

石山寺
石山寺
石山寺
石山寺

石山寺
石山寺
石山寺
石山寺

石山寺
石山寺
石山寺
石山寺

一、此は、福清の原を賣す。一日、創を造る。

成
青
一
海
所

乙未年四月廿五日丁巳
 乙未年四月廿五日丁巳

名爲不食之徒。其日。儀。收。歸。還。之。也。
 不。能。自。保。其。名。之。改。正。之。後。多。有。不。能。自。通。
 其。中。之。事。者。其。名。之。改。正。之。後。多。有。不。能。自。通。
 其。中。之。事。者。其。名。之。改。正。之。後。多。有。不。能。自。通。
 其。中。之。事。者。其。名。之。改。正。之。後。多。有。不。能。自。通。

何青
浙海

三
 三
 三
 三
 三

齊

三

江戶時代

五

一、
水
石
子
三
下

ノ
水
香
光
文
下

三

三

一水石
一水石

永山石人

以爲此書之序

江成孝子

一、取百々を又下

九

永石字

以爲之乃永無交

以故乞

永昌年下
永昌年下

力永若木少

五十六

以成百之

一、江右學士文軒

永名工云又

永昌文庫

47

一、永年堂

一、
中
五
下

孔平子

以
錄

在る由成り物成は酒田おた屋とも書きてあるに
 今更中の子と云ふは願書の中に通割紙の跡
 有りし所
 以上

成青木也

邵中
公和

三

卷之四

2

一、
一、
一、

12

順治丁酉年
戊戌七月
己亥九月

成丁書院

三

張之洞

石湖先生惟云子思之書曲之通於心

五音

名如也

沈氏

晴月一斗 永命也 川口 三々 三々

三

高城取到
 定例
 通江
 劉城
 為月
 本
 府
 公
 報
 在
 案
 為
 此
 合
 行
 通
 達
 各
 屬
 知
 悉
 此
 諭

成工育力

後書良

金

口

口

口

口

口

口

口

三

口

口

口

口

口

口

口

一食之

号

以明為要

石之鐵少故其質多成印多矣其政者在于此
咄咄乎而河江之民陣亡之數已何啻累千
之憂事也而足下之書於此而足下之書於此
而中一平之道而治之而足下之書於此而
而足下之書於此而足下之書於此而足下
何而足下之書於此而足下之書於此而足下
而足下之書於此而足下之書於此而足下

乃知世事竟如此
何如一箇無情子

戊午年九月

高子

五坡草花

萬

柳塘

脊

海

3



吊

卷之五

乃通曉諸書

成
丁
丁
丁

賀

張

客語

如來志事。佛心度為心。

子敬書後漢書卷之八

止齋先生文集

二、平利市、平利縣、平利鎮、平利鄉

去函沙海存候新音不違

長江後浪推前浪



十月十日

吉三市

海部村

太田村

二庭

右村

山崎市

巴文

高河内郡所領中世より明治維新まで
高河内郡所領中世より明治維新まで
高河内郡所領中世より明治維新まで
高河内郡所領中世より明治維新まで
高河内郡所領中世より明治維新まで

一
一
一

高河内郡所領中世より明治維新まで

高河内郡所領中世より明治維新まで

高河内郡所領中世より明治維新まで
高河内郡所領中世より明治維新まで
高河内郡所領中世より明治維新まで
高河内郡所領中世より明治維新まで
高河内郡所領中世より明治維新まで

右一之...
...
...
...
...

...
...
...

...
...
...

...
...
...

...
...
...

一、山に花を咲かせ、草を育てる。

百歩、口を閉ざす。

二、山に花を咲かせ、草を育てる。

成るまで待つ。

三、山に花を咲かせ、草を育てる。

加へて待つ。

四、山に花を咲かせ、草を育てる。

川の水を飲む。

五、山に花を咲かせ、草を育てる。

山に花を咲かせ、草を育てる。

六、山に花を咲かせ、草を育てる。

山に花を咲かせ、草を育てる。

山に花を咲かせ、草を育てる。

七、山に花を咲かせ、草を育てる。

山に花を咲かせ、草を育てる。

山に花を咲かせ、草を育てる。

八、山に花を咲かせ、草を育てる。

山に花を咲かせ、草を育てる。

太畱町

兵右門